



# 文化とともに60年

理研興業(株)

創業60年を迎えて  
代表取締役社長 柴 尾 耕 三



当社は昭和三十年の  
創業以来、防雪・防風  
対策製品の事業メー  
カー

として各種製品を開  
発・販売して参りまし  
た。  
厳しい時代の荒波に  
もまれながらも、柔軟  
な姿勢と不屈の精神で  
製品の研究開発・技術  
向上に取り組み、今日一  
げます。

注機関をはじめ関係各  
方面の皆様のご理解と  
ご支援の賜物である  
と、心より感謝申し上  
げます。

同社は、理化学研究所を母体とした新理研工業㈱及び理研商事㈱の北海道営業所として昭和24年12月に発足し、理研系各社製品の販売を担当、順調に推移してきた。同年10月、新理研工業が大同製鋼㈱と合併するのを機に営業所閉鎖の運びとなつたが、取引先等からの強い存続要望を受け、昭和30年11月11日、小樽市に本社を置く理研興業㈱が誕生した。36年に世界6カ国で特許取得した「理研クリスポート」を開発し、大反響を受けたのち、38年に業務拡大に

防雪柵・防風柵の專業メーカーの理研興業㈱（小樽・柴尾耕三社長）が創業60年を迎えた。雪国の安全で円滑な道路環境の発展を支えて60年。技術開発・製品開発に投資を惜しまず、常に新たな課題に挑戦し続ける姿勢で信頼を積み重ね、各地に設置された防雪柵は今年で延べ1000kmを達成した。

同社は、理学研究所を母体とした新理研工業㈱及び理研商事㈱の北海道営業所として昭和24年12月に発足し、理研系各社製品の販売を担当、順調に推移してきた。同年10月、新理研工業が大同製鋼㈱と合併するのを機に営業所閉鎖の運びとなつたが、取引先等からの強い存続要望を受け、昭和30年11月11日、小樽市に本社を置く理研興業㈱が誕生した。36年に世界6カ国で特許取得した「理研クリスポート」を開発し、大反響を受けたのち、38年に業務拡大に

納入実績延べ1000km達成  
雪国の道路を支え半世紀余

に世界6カ国で特許取得した「理研クリスポート」を開発し、大反響を受けたのち、38年に業務拡大に

特に、公共事業の命題でもある維持管理コストの縮減についての主流技術として定着した。

近年では、従来より優れた防雪効果や施工時の利便性、維持管理コストの縮減等、多様な要求に高い評価を得ており、今では防雪柵業界は、早期からその技術

テムNETTISへの登録とともに各地で非常に高い評価を得ておらず、今では防雪柵業界

の主流技術として定着

化する「ニーズ」に対応すべく、「高性能防雪柵（誘導板付忍び返し柵）」「自動収納型高機能防雪柵」「鋼管杭打ち込み金具（R-1-i nk）」「多機能遮音型主柱材接続固定工法ZIG」「鋼管杭打ち込み金具（R-1-i nk）」等を開発。これらの技術は国土交通省新技術情報提供システム

当社の成長の歴史は、防雪柵の進化の歴史でもあります。仮設タイプの吹溜柵や吹払柵に始まり、現在では、自動で収納することが可能となつた高機能防雪柵や高い防雪効果を発揮する高性能防雪柵等、防雪柵も様々な進化を遂げきました。「新製品は現場から生まれる」という信念のもと、現場の声を謙虚に聞き、技術革新に取り組んでいます。また当社は、公共交通機関も運行立場から環境対策にも取り組んでいます。単なる防雪柵等、景観や自然環境に配慮した製品を提案し、更には、自然エネルギーを活用し、昨今の気候変動にも対処します。

今後とも末永くご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

これまでに培つてきた技術と経験を活かし、更なる防雪技術の向上を目的とした「超高性能防雪柵」の製品化や、防雪柵にとどまる」となく新たな分野への挑戦として「高輝度SM

法」の提案、「防雪防風柵用基礎コンクリートブロック（日本高圧コンクリート㈱共同開発）」、「環境への配慮ならびに異常気象頻発への対応を目的とした事業として、「防雪柵の鋼管杭」の構築（PVG Solutions㈱・㈱クリスト共同開発）、「太陽光発電を活用した融雪システム」の構築（PVG Solutions㈱）など、各事業で多くの技術が開発され、地域企業の育成とともに雇用創出による地域経済の活性化への寄与を図ると同時に、

法人国際協力機構（JICA）による研修の一環として東ヨーロッパ・中央アジアの国々から来客を招き、防雪柵の新技術プレゼンテーションや風洞実験の視察を行った。寒冷地特有の道路維持に関する課題と対応を理解するため、dec（一般社団法人北海道開発技術センター）の依頼を受け、理研興業㈱が協力する形で本視察が実現した。

また、寒冷地特有の道路維持に関する課題と対応を理解するため、dec（一般社団法人北海道開発技術センター）の依頼を受け、理研興業㈱が協力する形で本視察が実現した。この技術は、国内外で最先端の防雪技術に各國代表から感嘆の声が上がり、各國の科学技術大学（千歳市）の学生を招き、学生向け企業研究の一環として、製品やサービスがどのように社会に提供されるかを体感できることを実現する機会づくりを行っている。また、社会貢献活動の一環として、製品やサービスがどのように社会に提供されるかを体感できることを実現する機会づくりを行っている。また、社会貢

り、今では防雪柵業界は、早期からその技術

に受け止め様々な要望に応えることで、新たな付加価値を生み出す製品をも提案すべく、日々研鑽を積んでいます。また当社は、公共交通機関も運行立場から環境対策にも取り組んでいます。単なる防雪柵等、景観や自然環境に配慮した製品を提案し、更には、自然エネルギーを活用し、昨今の気候変動にも対処します。

今後とも末永くご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

これまでに培つてきた技術と経験を活かし、更なる防雪技術の向上を目的とした「超高性能防雪柵」の製品化や、防雪柵にとどまる」となく新たな分野への挑戦として「高輝度SM

法」の提案、「防雪防風柵用基礎コンクリートブロック（日本高圧コンクリート㈱共同開発）」、「環境への配慮ならびに異常気象頻発への対応を目的とした事業として、「防雪柵の鋼管杭」の構築（PVG Solutions㈱・㈱クリスト共同開発）、「太陽光発電を活用した融雪システム」の構築（PVG Solutions㈱）など、各事業で多くの技術が開発され、地域企業の育成とともに雇用創出による地域経済の活性化への寄与を図ると同時に、

法人国際協力機構（JICA）による研修の一環として東ヨーロッパ・中央アジアの国々から来客を招き、防雪柵の新技術プレゼンテーションや風洞実験の視察を行った。寒冷地特有の道路維持に関する課題と対応を理解するため、dec（一般社団法人北海道開発技術センター）の依頼を受け、理研興業㈱が協力する形で本視察が実現した。

また、寒冷地特有の道路維持に関する課題と対応を理解するため、dec（一般社団法人北海道開発技術センター）の依頼を受け、理研興業㈱が協力する形で本視察が実現した。この技術は、国内外で最先端の防雪技術に各國代表から感嘆の声が上がり、各國の科学技術大学（千歳市）の学生を招き、学生向け企業研究の一環として、製品やサービスがどのように社会に提供されるかを体感できることを実現する機会づくりを行っている。また、社会貢

り、今では防雪柵業界は、早期からその技術

に受け止め様々な要望に応えることで、新たな付加価値を生み出す製品をも提案すべく、日々研鑽を積んでいます。また当社は、公共交通機関も運行立場から環境対策にも取り組んでいます。単なる防雪柵等、景観や自然環境に配慮した製品を提案し、更には、自然エネルギーを活用し、昨今の気候変動にも対処します。

今後とも末永くご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

これまでに培つてきた技術と経験を活かし、更なる防雪技術の向上を目的とした「超高性能防雪柵」の製品化や、防雪柵にとどまる」となく新たな分野への挑戦として「高輝度SM

法」の提案、「防雪防風柵用基礎コンクリートブロック（日本高圧コンクリート㈱共同開発）」、「環境への配慮ならびに異常気象頻発への対応を目的とした事業として、「防雪柵の鋼管杭」の構築（PVG Solutions㈱・㈱クリスト共同開発）、「太陽光発電を活用した融雪システム」の構築（PVG Solutions㈱）など、各事業で多くの技術が開発され、地域企業の育成とともに雇用創出による地域経済の活性化への寄与を図ると同時に、

法人国際協力機構（JICA）による研修の一環として東ヨーロッパ・中央アジアの国々から来客を招き、防雪柵の新技術プレゼンテーションや風洞実験の視察を行った。寒冷地特有の道路維持に関する課題と対応を理解するため、dec（一般社団法人北海道開発技術センター）の依頼を受け、理研興業㈱が協力する形で本視察が実現した。

また、寒冷地特有の道路維持に関する課題と対応を理解するため、dec（一般社団法人北海道開発技術センター）の依頼を受け、理研興業㈱が協力する形で本視察が実現した。この技術は、国内外で最先端の防雪技術に各國代表から感嘆の声が上がり、各國の科学技術大学（千歳市）の学生を招き、学生向け企業研究の一環として、製品やサービスがどのように社会に提供されるかを体感できることを実現する機会づくりを行っている。また、社会貢

り、今では防雪柵業界は、早期からその技術

